

## 先生方から聞いた利用の多い例

※ニカショウはイヌ・ネコ両方(哺乳類全般)に利用できます

給与量は10キロに対して1粒ですが、最初は2倍の量を与えると、より効果的です。良くなってきたら、通常の量に戻してください。

## 糖尿

### ■血糖コントロール

- ・血糖のコントロールを助るために、インスリンと併用  
(血糖降下剤とは違い一時的に血糖値を下げるのではなく、血糖を正常な状態に近づける働きがあります。そのため体調によるブレ幅が小さくなり、コントロールが楽になります。また、低血糖を起こしづらくなります。)
- ・血糖値が下がった後の維持・予防として使用(単独・併用可)
- ・初期の段階では、処方食と一緒に使用されています

## 肝臓

### ■ALP・ALTを低下させる(肝機能障害)

- ・強肝剤(グルタチオン・強力ネオミノファーゲンシーなど)と併用、又は単独で使用
- ・軽度上昇(ALP500程度)、又は維持・予防として、単独でも多く使用されています

### ■ステロイド治療時の肝臓保護

- ・肝機能を保護するために医薬品(ステロイドなど)と併用されています

### ■胆泥・胆嚢拡張に対処する

- ・利胆剤(ウルソ・スパカールなど)と併用、又は単独で使用
- ・軽度の場合、又は維持・予防として、単独でも多く使用されています

### ●血清脂質異常、免疫機能低下、クッシング、高齢による肝臓の衰え

## 糖尿

状態	目的	種別 年齢	使用法・コメント
糖尿病	食事量を増やしつつ血糖値をコントロール	犬 メス6歳	食事量の設定が低くなっており、体がガリガリに痩せている上に、血糖値がインスリンを使っても安定しない状態だった。インスリンと併用しながら、食事量を増やしていく。
糖尿病 慢性腎不全	血糖値のコントロール	猫 オス15歳	PZIインスリンの2日間投与で、血糖をコントロール。その後、腎不全の治療とともに内服にてコントロール。
糖尿病 口内炎、歯肉炎	血糖値のコントロール	猫 オス11歳	当初にインスリン投与で血糖値の安定を行い、その後、内科(内服)治療での維持を試みた。元々、胆泥症も併発していたため、そのまま継続して使用。初日のみNPHインスリン、他グルコバイ、オイグルコン、グルタチオン、タウリン、強力ネオミノファーゲンシー、チオラと併用。
糖尿病	血糖値のコントロール	猫 メス10歳	ノボリンと併用。
健康維持	総コレステロールの改善	犬 オス1歳2ヶ月	健康維持として、総コレステロールの改善のために使用。

## 肝臓

状態	目的	種別 年齢	使用法・コメント
肝機能障害	ALPIに著明な変化	犬 メス14歳	グリチロン、タチオン、……、リパオール、プロヘパール等、肝保護薬は使える限り試したが、著明な変化はなかった。13歳の老齢であること、肥満しているということで、ALPがある程度高いのは、仕方がないという見方をしていた。しかしながら、単独で試してみたところ、ALPIに著明な変化が見られた。
肝機能障害	ALPが半分くらいに減少	犬 オス8歳	他院でステロイドの過剰投与により、医源性クッシングを起こしたことがある犬。副腎皮質ホルモン分泌レベルがほとんどないに等しく、体がかゆくなる為、レダコート2mg、1週間に1回使っていた。その結果、ALPが非常に高くなりました。今現在も治療継続中で、Milk Thistle Complexとの併用で、ALPが半分くらいに減少しました。
体表型肥満細胞種腫外分泌不全	ALTの値が下がる	犬 メス14歳	術前もALTの値は270位と高く、グルタチオン、パンパール等の治療薬では変化が見られないため、使用する。腫瘍の正体が肥満細胞種であった為、ステロイドを投薬しながらの使用となったが、ALTの値は下がってくれた。
肝機能障害	ALT値が下がった	犬 オス6歳	いままで、様々な肝保護薬等を使ってみるもALTのみが、かなりの高値を示しており、ほとんど下がらなかったが、Milk Thistle Complexと組み合わせて使ったところ、ALT値が下がった。
乳腺腫瘍(肝保護、骨髄保護)	免疫レベルの改善(リンパ球の改善)、及び腫瘍の縮小化	犬 メス9歳	強カネオミノファーゲンシー、ラクトパワー他と併用。その結果、免疫レベルの改善(リンパ球の改善)、及び腫瘍の縮小化。
肝機能障害	ALTの下降	犬 オス1歳5ヶ月	肝保護薬として、ウルソ、強カネオミノファーゲンシー、ゴスペールレパー等と併用。4週間後のチェックでALTの下降が見られた。
ALPが高く、胆嚢に肥厚	ALPの減少	犬 オス12歳	ALPが高く、胆嚢に肥厚がみられたため使用。
肝臓、腎臓の保護	脂質代謝の改善	猫 オス9歳	強カネオミノファーゲンシー、ラクトパワー他と併用。脂質代謝が改善。

## 胆泥

状態	目的	種別 年齢	使用法・コメント
胆泥症 全身のうくみ 元気消失	胆泥の著明なる改善	犬 オス9歳	ラクトパワー、強カネオミノファーゲンシー、ウルソ他と併用。エコーにて確認すると、胆泥に著明なる変化があり、全身のむくみや元気が良くなった。
胆泥症 胆嚢拡張症	エコーにて良化を確認	犬 メス10歳	フォルテコール、アンギナールと併用。エコーにて良化を確認。
胆泥症	症状の改善	犬 メス7歳	ウルソと併用。
胆管肝炎 前立腺肥大、胆泥症	症状の改善	犬 オス3歳	インターフェロンα製剤、関節サプリメント、肝臓抽出製剤、ビタミンK1・B12・Cと併用。
胆嚢炎、胆泥症	症状の改善	猫オス10歳	フォルテコール、タチオン、チオラ、強カネオミノファーゲンシー、タウリンと併用。

## その他

状態	目的	種別 年齢	使用法・コメント
アトピー性皮膚炎(肝・脾保護)	TGの改善。 皮膚(かゆみ)の改善	犬 オス3歳	ラクトパワー、強カネオミノファーゲンシーと併用。TGの改善。皮膚(かゆみ)の著明なる改善。
慢性脂漏症 アトピー性皮膚炎	症状の改善 (非常に元気になった)	犬 オス14歳	pred 5mgと併用。症状が改善し、非常に元気になった。
皮膚アレルギー アトピー性皮膚炎	フケ、カユミの改善	犬 オス3歳	インターフェロン、抗ヒスタミン剤、ビタミンK1・B12・Cと併用。フケ、カユミの改善。
健康維持	総コレステロールの改善	犬 オス1歳	健康維持として、総コレステロールの改善のために使用。
ウイルス性口内炎	QOL向上のため	猫 オス4歳	強カネオミノファーゲンシー投与などと併用。
慢性口内炎(ウイルス性)	T-CHOの改善 肝機能の改善	猫 メス1歳3ヶ月	免疫改善剤投与、皮下輸液、強カネオミノファーゲンシー、ラクトパワー他と併用。T-CHOの改善、肝機能の改善。
口内炎 胆泥症	肝酵素の下降、安定化	猫 メス7歳	当初、皮下輸液、強カネオミノファーゲンシー投与等を併せて継続して行い、肝酵素の下降、安定化を狙う。現在は、その他サプリメント類でコントロール中。
慢性胃腸炎 腎不全	状態が落ち着く	猫 オス5歳	インターフェロン、塩化リゾチーム、SODロイヤル、ビタミンB12・K1・Cと併用。下血・嘔吐がひどかったが、回数も減り、落ち着いてきている。
猫免疫不全 ウイルス感染症	状態が落ち着く	猫 メス8歳	インターフェロン、霊芝、ビタミンK1・B12・Cと併用。状態は落ち着いている。
うっ血性心不全(僧帽弁閉鎖不全症) 期外収縮、水頭症	血液をサラサラにして、症状を緩和させる	犬 メス13歳	ウルソ、グルタチオン他で良化せず、使用する。エナカルト、アンギオール、ニトロールR、アプレゾリン、プロタノールと併用。